

## 地元小学生が市野新田ダムを現地見学

柏崎周辺農業水利事業所 市野新田支所

平成 26 年 10 月 31 日（金）に、新潟県柏崎市立剣野小学校 4 年生約 60 名が市野新田ダムの建設現場の現地見学に訪れました。剣野小学校は、うかわ 鵜川の下流域にあり、上流域で建設している市野新田ダムの役割を学ぶために来ました。

市野新田ダムの右岸の天端側から建設現場を見た児童たちは「広い！」「機械がいっぱいある」と興奮気味に話していました。初めに、右岸天端にある休憩所内で、ダムのはたらきや作り方、市野新田ダムについて説明を受けた児童たちから、「ダムが完成するまでに何年かかりますか」、「ダムにはどのような種類がありますか」といった質問があり、ダムに対する関心の高さが伝わってきました。

次に、現地盛り立て試験を行っているブレードヤードに移動して、堤体の盛立てのデモンストレーションを見学しました。デモンストレーション用に小さい盛立ヤードを設け、築堤材料をダンプトラックに積み込み、ヤード内に運搬、ブルドーザで敷均し、振動ローラで転圧を行うという一連の作業を見学しました。様々な重機が動いている様子を目の当たりにして、また、振動ローラの振動を体中に感じて、「迫力がすごい！」「たくさんの機械が役割分担している」といった感想のほか、「盛立試験ではどんなことを確認するのですか」といった鋭い質問もありました。材料の盛立に係る一連の作業を見ることで、フィルダムがどのように盛り立てられるのかが理解してもらえたのではないかと考えています。

今回、見学に訪れた児童の多くが柏崎市内にある上水道用ダムである谷根たんねダム（重力式コンクリートダム）を見学したこともあり、ダムについてある程度の知識はあるようでしたが、フィルダムについてはあまり知らないようで、ダムの建設現場は見たことがなかったようなので、新鮮に感じているようでした。当事業所は今後も受益地や関係流域周辺の住民を対象として積極的に説明会を行うことにより、事業に対する理解を深めてもらうきっかけになることを期待しています。

（原稿作成：〇）



説明を熱心に聴く児童



「ブルドーザで敷均します」



バックホウに初乗車